

本学卒業生（2021年、2022年3月卒業）の キャリア形成の状況に関する調査

2023年2月

大阪歯科大学医療保健学部キャリア支援委員会

はじめに

大阪歯科大学医療保健学部は2017年4月に開設され、早6年経過しようとしています。前身の大阪歯科大学歯科衛生士専門学校及び大阪歯科大学歯科技工士専門学校からの伝統を受け継ぐとともに、歯科医療技術者を養成する4年制大学として、将来歯科医療業界を牽引する人材の養成を行っています。

医療保健学部キャリアセンターは、学部開設と同時に設置されました。学生が4年間を通して自分自身のキャリア形成に真摯に向き合い、自律的に人生を歩んでいけるようになるべく、入学以後さまざまな事業を展開してまいりました。

当センター開設からのキャリア教育およびキャリア支援について検証し、今後の改善に活かしていくために、第2期生が社会に出て半年になる2022年10月に、卒業生の勤務状況やキャリア形成の状況に関する調査を実施しました。ご意見を賜り、昨年度から継続している課題に加え、新たな課題に気づくことができました。本学卒業生は4年制大学卒業生でありながら、その特徴がまだ十分活かせていないことを目の当たりにした次第です。いただきました貴重なご意見をもとに、今後本学の卒業生が歯科医療業界の中心的な存在になるべく、キャリア教育およびキャリア支援を進めてまいります。

末筆ですが、今回大変お忙しい中率直な、かつ価値あるご意見を賜りました事業所のみなさまに、衷心より御礼を申し上げます。

2023年2月

大阪歯科大学医療保健学部キャリアセンター

調査概要

1. 調査の目的

2017年の本学部開設以後5年間のキャリア教育およびキャリア支援について検証し、改善に活かしていくために、2021年3月に本学部を卒業した第1期生、2022年3月に本学部を卒業した第2期生、また卒業生の就職先を対象に、卒業生の現在の勤務状況やキャリア形成の状況に関する調査を実施した。

2. 調査対象者および調査対象事業所数、回答者数および回答事業所数

<卒業生>

- ・対象者：2021年3月に本学部を卒業した第1期生46名、2022年3月に本学部を卒業した第2期生75名、計121名
- ・回答者：第1期生20名、第2期生17名、計37名（回答率31.6%）
（2021年度回答率54.3%）

<就職先>

- ・対象事業所：2021年および2022年3月に本学部の卒業生が就職した77か所
- ・回答者事業所：51事業所（実事業所数50か所、74名分）（回答率66.2%）
（2021年度回答率65.8%）

3. 調査時期

2022年10月4日から2022年11月30日まで

4. 調査方法

インターネット上の調査フォームへの入力および送信（Google Forms）

5. 回答があった卒業生の勤務先内訳および回答をいただいた事業所の内訳

<卒業生>

- ・病院：17事業所（2021年度：17事業所）
- ・歯科診療所：10事業所（2021年度：2事業所）
- ・民間企業：8事業所（2021年度：5事業所）
- ・地方自治体：1自治体（2021年度：1自治体）
- ・就職活動中 1名（2021年度：0名）

<就職先>

- ・病院：19事業所（20部門）（2021年度：13事業所）
- ・歯科診療所：23事業所（2021年度：5事業所）

- ・民間企業：7事業所（2021年度：6事業所）
- ・自治体：1自治体（2021年度：1自治体）
- ・大学：1校（2021年度：0校）

6. 在職者、休職者、退職者数および退職理由(2021年3月卒業生および2022年3月卒業生)

調査にご協力いただいた50事業所、51部門においては、70名が在職、2名が休職、2名が退職していた。

一方、卒業生からの回答では、新卒で入職した事業所に在職していた者が31名（うち1名が休職中）、新卒で入職した事業所を退職した者が6名であった。そのうち新たな事業所で勤務している者が5名（うちアルバイト1名）、現在求職中の者が1名であった。

卒業生が回答した退職理由としては、面接時と実際の契約内容の差異（2名）、人間関係（2名）、体調不良（2名）、人格否定（1名）、自分がやりたいことができなかった（1名）、パワハラ（1名）が挙げられた。

7. 勤務先の満足度および問題点（卒業生）

37名中「満足」が20名（2021年3月卒：9名、2022年3月卒：11名）、「少し満足」が9名（2021年3月卒：6名、2022年3月卒：3名）と半数以上を占めたものの、「やや不満」が7名（2021年3月卒：5名、2022年3月卒：2名）、不満が1名（2022年3月卒）存在した。「不満」および「やや不満」の理由として、職務内容（7名）、人間関係（院長の人間性を含む）（5名）、賃金（4名）、休日・休暇（3名）、教育研修制度および通勤時間や距離（2名）、人手不足（1名）が挙げられた。

8. 卒業生の勤務態度（事業所）

回答があった事業所での対象者74名中、「1. よい」が64名、「2. ふつう」が8名、「3. よくない」が2名であった。

「3. よくない」理由として、遅刻や無断欠勤、社会人としてのマナーやコミュニケーション不足が挙げられた。

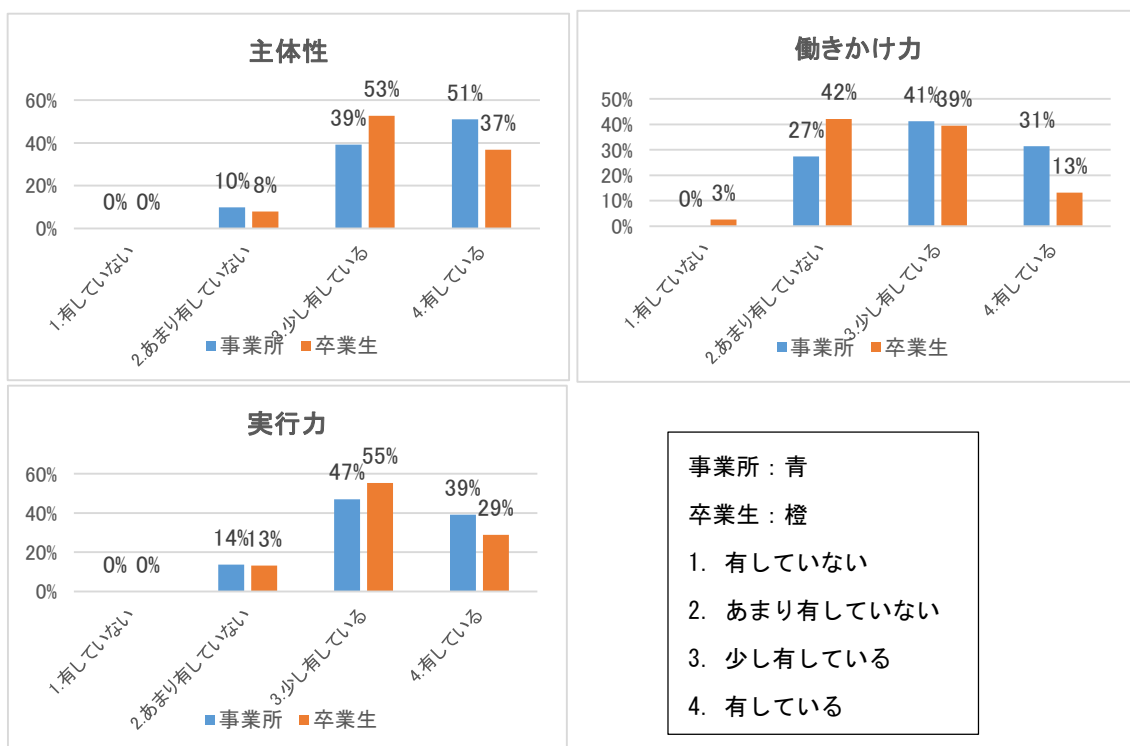
9. 社会人基礎力

a. 前に踏み出す力（アクション）

卒業生（橙）については、「物事に進んで取り組む力（主体性）」、「目的を設定して確実に行動したりする力（実行力）」を「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した者が大半を占めた。一方、「他人に働きかけて巻き込む力（働きかけ力）」については、「2. あまり有していない」と回答した卒業生が半数近くを上った。これらの結

果は、昨年度の調査とほぼ同様の傾向を示した。

事業所（青）については、「物事に進んで取り組む力（主体性）」を卒業生が「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した事業所、また「目的を設定して確実に行動したりする力（実行力）」を「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した事業所が約 90%であった。一方、「他人に働きかけて巻き込む力（働きかけ力）」については、30%近くの事業所が「2. あまり有していない」と回答した。こちらも昨年度とほぼ同様の傾向を示した。



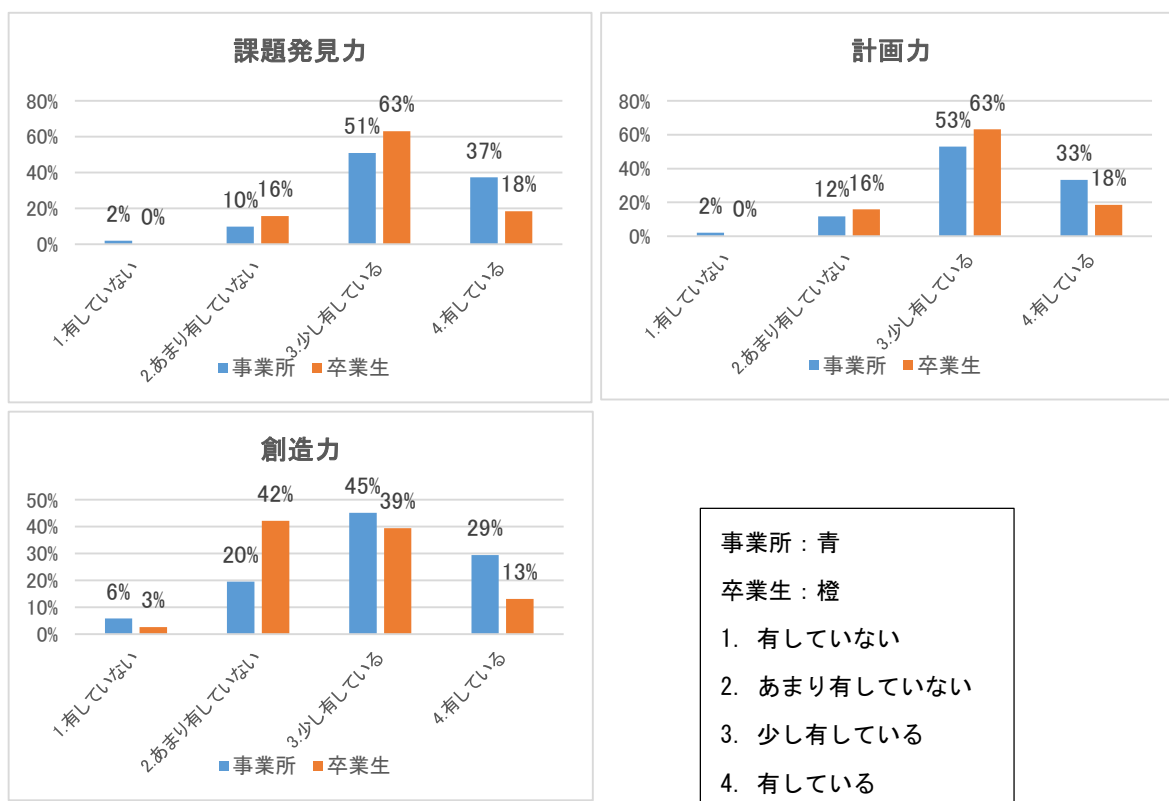
b. 考え抜く力（シンキング）

卒業生（橙）については、「現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）」、「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（計画力）」を「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した者が 80%以上を占めた。一方、「新しい価値を生み出す力（創造力）」については、「2. あまり有していない」、「3. 少し有している」の順に回答した者が多く、これら 2 項目で 80%以上を占めた。これらの結果は、昨年度の調査とほぼ同様の傾向を示した。

事業所（青）については、「現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）」、「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力（計画力）」を「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した事業所が 80%以上を占めた。「新しい価値を生み出す力（創造力）」については、「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答

した事業所は 74%であった。これらの結果は、昨年度の調査とほぼ同様の傾向を示し、事業所の方が卒業生よりも卒業生が創造力を有していると考えていることが明らかになった。

一方、考え抜く力（シンキング）に関する 3 項目について、昨年度と同様に卒業生が「1. 全く有していない」と回答した事業所数は、卒業生が「1. 全く有していない」と回答した数よりいずれも上回っていた。

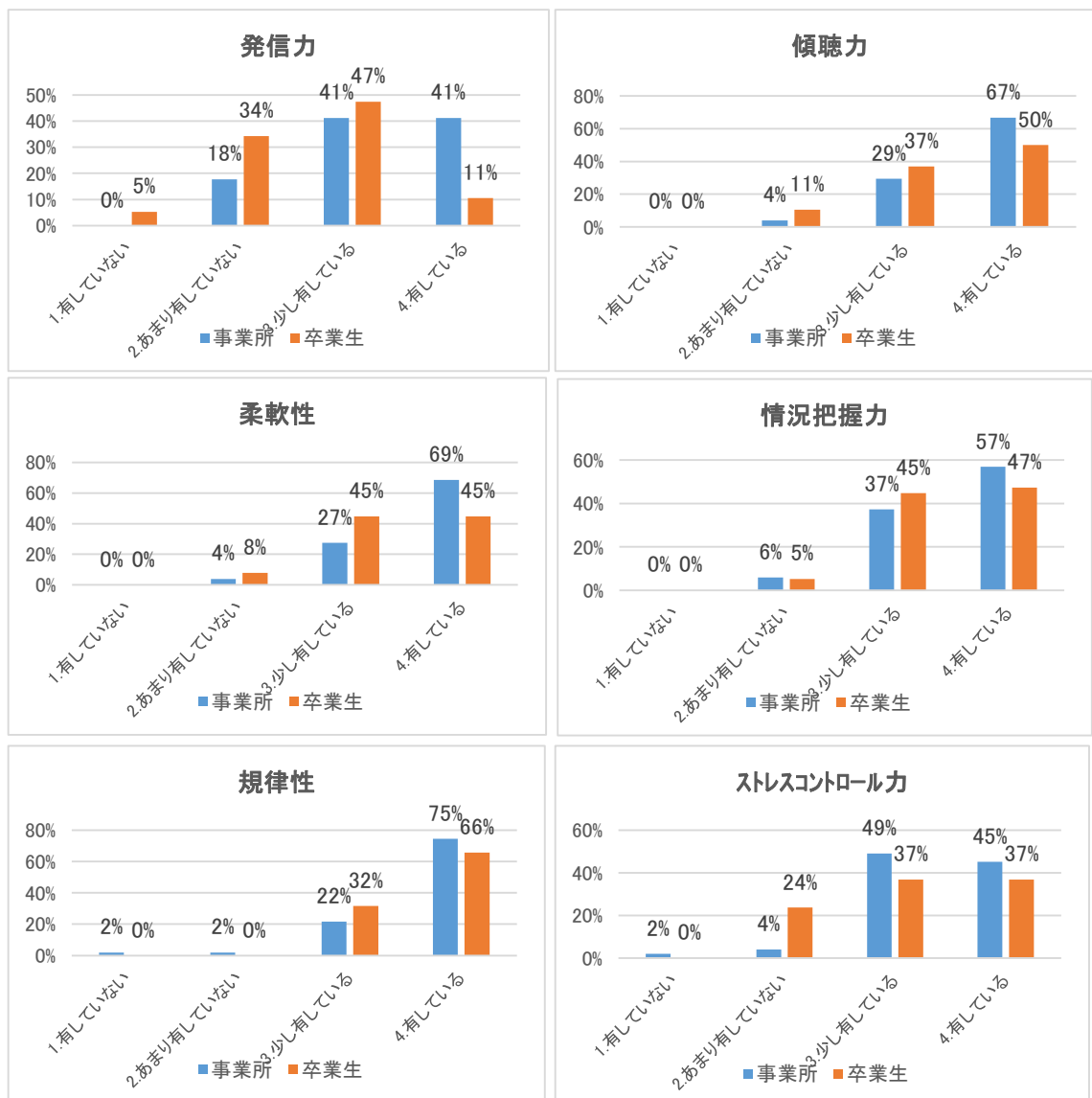


c. チームで働く力（チームワーク）

卒業生（橙）については、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」について、「3. 少し有している」、「2. あまり有していない」の順に回答した者が多く、これら 2 項目で 80%以上を占めた。反面、「1. 全く有していない」と回答した者は 5%存在した。また、「ストレスの発生源に対応する力（ストレスコントロール力）」について、「4. 有している」、「3. 少し有している」と回答した卒業生が各 37%、「2. あまり有していない」と回答した卒業生が 24%存在した。他の項目では「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した者が約 90%に上った。ストレスコントロール力について、昨年度の調査より「2. あまり有していない」と回答した卒業生が増加した。

事業所（青）については、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」以外の項目で「4. 有している」、または「3. 少し有している」と回答した事業所は 90%以上を占め

た。しかし、「自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）」については、「2. あまり有していない」と回答した事業所が18%存在した。結果については、昨年度とほぼ同様の傾向を示した。



10. 本学在学中にあればよかったと思う教育（卒業生、人名以外原文ママ）

- ・座学で学んでから実習を行う。実習から行い座学の理解度を上げることも重要でしたが、理解した状態で実習をした方が後々の為になると思ったからです。
- ・パソコンの使い方
- ・国家試験範囲以外にも少しだけでもいいから学びたかった
- ・病院実習において、ちゃんと臨床に則して教育していただければ良かった。（例えば生PZなのか失PZなのか。失PZならばファイバーなのかメタルコアなの

か。クリアランスの量によっても適応する補綴物は変わってくる。(メタルコアにジルコニアは審美的にあまりよろしくないからなど)。PDの作製の際も、設計はあくまでも先生が行ってくれるが、なぜこのような設計をしたかなど解説してほしい。あくまで、病院実習でも教科書の延長線上しか教えていただけなかった。臨床での考え方や臨床を行う上での根拠等が知りたかった(例で挙げたようなことを想定して作っていく中で)。臨床に出たから技術が足りないのは仕方ないとしても、臨床に対する知識が少なすぎて、とても国試の知識では対応出来なくて困る。その点、〇〇先生の病院実習の授業では、臨床に則した授業をしていたので、臨床出たからでも対応することが出来た。また、病院実習は各々が自由に作製することが出来るため、キャリアからの視点で言うと、生徒それぞれの志望先によって、技工所で行うような技工や院内ラボで行うような技工をしたら良いのではないかなどや志望先によっての臨床の特徴などをアドバイスされたら生徒も4年次の就職活動の際に、将来のイメージがしやすいし、話のネタにもなるのではないかな。今求人活動を私が行っていて専門の人と話した際に感じることは、大阪歯科大学のカリキュラムは圧倒的に専門より密度や学びの濃いものである。(デジタル技工学、審美歯科技工学、インプラント技工学、訪問実習、オーラルアプライアンス技工学、病院実習等)これだけの圧倒的知識、技術の差をつけることが可能であるにも関わらず、病院実習は2年間も行うのに本当に勿体無いなと感じてしまう。

- ・新人歯科衛生士としての上手い立ち回り方。
- ・全身疾患と歯科の繋がり
- ・就活の時に、求人はスクショするなりしておいた方が良いつて教えて欲しかったです。
- ・実技実習
- ・有給などの制度についてなど。
- ・特になし。

11. 本学卒業生および本学の教育に対して望むこと (事業所、原文ママ)

<卒業生に対して望むこと>

- ・会社の仕事に興味を持って自身の成長を意識しながら仕事をしてもらうことです。会社の仕事がすべて自分の成長の糧になるように捉えてもらえるといいと思います。
- ・自分で考えて、考えたことを共有し、動ける人。患者さんに対する優しい心と愛情。
- ・考える力 これは問題解決力だけではなく、人への配慮などすべてのことに繋がる力である

- ・自ら興味を持ち、自ら踏み込み、自ら生の情報を掴む姿勢。顧客から選ばれ続けるために、自ら活動を更新する姿勢。
- ・まだ卒年数が浅いので不確定な面もありますが、より積極的な姿勢・自己表現をしてくれた方が、より能力が発揮できるのではないかと考えています。
- ・1人優秀な人がいるので、特に望まない。
- ・この業界に対する視野の広さ 同校がかなり閉鎖的だと感じます。
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・特になし。
- ・協調性、持続力、向上心、素直で明るい心のもちよう
- ・自立した発言、行動、考え抜く力
- ・自ら学ぼうとする姿勢
- ・歯科衛生士として向上する姿勢
- ・様々なことを吸収してもらいたいです。
- ・もう少し積極的な言動を期待する。
- ・組織の課題抽出能力があると管理職候補となりうる
- ・明るく前向きに肯定的に物事に取り組む力
- ・教育や研究にさらに力を入れてほしい
- ・技術面に加え、元気で明るく挨拶でき、他のスタッフへプラスの影響を与えてくれるような存在
- ・各々が自己目標を持って業務について欲しい。
- ・何事にも積極的にチャレンジして欲しい
- ・専門的知識・技量だけでなく社会人としての能力を発揮すること
- ・歯科衛生士のマネージャー、リーダーとなって欲しい
- ・技術者としてのスキルだけでなく、社会規範も身につけてもらいたい
- ・周りを見て確認しながら聞いたり体を動かしたりできるようになって欲しい
- ・7月中旬より原因不明の高熱が出現し(現在も療養中) やむを得ず退職していただくこととなった為、仕事面での関わりが浅く回答できる程掴めていない。短い関わりの中で考えるならば、謙虚で前向きに頑張る優秀な学生であったといえる。
- ・基礎知識の応用
- ・もう少し基礎的な技術を学習してきて欲しい
- ・適切な言葉の選び方等、社会人としてのコミュニケーションスキルを身につけてほしいです

<教育に対して望むこと>

- ・知識や技術だけでなく、挨拶や言葉遣いなど社会に出るうえで基礎的なことをできるだけ学生生活の中で自然に学んでもらえるような環境を整えていただきたい

いです。

- ・学生の頃に幅広く話は聞いている様子。知識と臨床をつなぐのは本人たちの経験だと思うが、なるべく教育の場で身近な臨床例の話を学生にしてあげてほしい。
- ・柔軟に考えられる人を育てる教育
- ・将来どのような衛生士になりたいか（短期・長期）、ビジョンの立て方、キャリアプランの作り方なども、学生の間にある程度学んでもらえればと思います。
- ・外部からの風通し
- ・歯学部附属という特性を生かして、臨床現場を出来るだけ体験し（技術ではなく）、医療人としての心を育ててほしい。コロナの影響でほとんどが見学だったのを、入職時に不安要素として訴えていたので、改善できるところは改善して欲しい。（歯科大の特性上、難しいのは理解しています。）就職活動について解禁日などがなく、比較的自由に活動できる点は良いと思います。他の学校は11月解禁と遅いのが多いので。
- ・社会人としての責任感
- ・多様化している治療について実技や知識を増やすよう、講義のカリキュラムを増やしてほしい
- ・コロナ禍で困難かもしれませんが、臨床実習を充実していただきたいです。
- ・勉強を続け学ぶことを続けられる能力
- ・素晴らしいお2人に入って頂き御校の教育のご成果を実感しております。現在は歯科衛生士以外にも、新卒皆さんなかなか自信のない方が多いかと存じます。社内研修も含め、学生の自信と自主性を育てなければなと思っております。
- ・相手に対する思いやり、コミュニケーション能力をアップしてほしい
- ・礼儀
- ・可能であれば、社会人基礎力および最低限の技術を習得してほしい。
- ・（専門学校ではない）大学ならではの人材育成
- ・その為の動機づけを含めた管理者育成教育
- ・技術教育に偏らない、一般的社会人としての教育
- ・学会や論文発表の基礎知識の対応
- ・時間が無いのは把握していますが、技工の反復練習をもっとしてきて欲しいです。
- ・実習現場での挨拶や態度等年々悪くなっています。マニュアルをしっかりと読んでこない、引き継ぎができていない、アシストにつかない等積極性が全くありません。臨床実習で何を学ぶのか、真剣に真摯に実習に取り組む姿勢を身につけていただきたいです。

総括

- ・ 社会人基礎力の 12 項目に関する回答傾向は、昨年度に続き、卒業生と事業所側はほぼ同様であった。
- ・ 本学卒業生は、基本的に自分がやらねばならないことは理解しているものの、その一歩先の、自ら考え動くこと、また自ら発信することなどについては弱いことが推察される。
- ・ 昨年度の調査同様、卒業生の自己評価が全体的にやや低い傾向がみられた。一方、事業所や教育に望むことでは、現実とは少し異なるのではないかと考えられる意見が散見された。全員がこれらの傾向を有するわけではないが、自己を客観的に見ることができる力を在学中に身につけられるような教育も必要であることが示唆される。
- ・ コロナ禍での臨床実習の少なさが、少なからず臨床現場での卒業生の働きに影響していることが推察される。
- ・ 事業所が大学卒業者として本学卒業生に求めているのは、昨年同様自ら考え、動き、発信すること、また課題を見つけ解決しようとしている点であることが明らかになった。これらを在学中から強化していく必要があることが示唆される。
- ・ 事業所では、在学中に臨床知識や臨床技能および技術をさらに身につけてから社会に送ることを期待しているところと、社会人としてのコミュニケーション力、将来へのビジョン、管理能力等を身につけてから社会に送り出すことを期待しているところがあることが明らかになった。どちらも社会で求められる事項であるが、臨床実習中など、在学中に身につけられると考えられる内容については、教育や指導を強化する必要があると考えられる。現行のカリキュラムでも十分対応可能であることから、指導内容の改善などを行い、在学中に学べることはできる限り盛り込むよう検討する必要がある。
- ・ 全体的に、本学卒業生は 4 年制大学卒業者でありながら、その特徴がまだ十分活かされていないと考えられる。これまでキャリアセミナーなどで自己分析や求人票の見方、就職活動に関する準備、将来に向けたキャリアプランニング等について指導を行ってきた。今後は自分自身のキャリアに関することのみならず、今後上記に列挙した事項も含め、4 年制大学卒業者としての社会に対する役割や責務などについて、さらに積極的に伝えていく必要があると考えられる。

以上